

第62回定例会

床版取替工事の事例など学ぶ

広島県コンクリート診断士会

いたブレキャストPCC床版の接合技術が解説された。

定例会は、会員の技術向上や親睦を目的に2011年の発足以来継続的に開いているもの。竹田会長（広島工業大学）は冒頭のあいさつで埼玉県八潮市の道路陥没事故に

触れ、「下水道管の劣化は以前から問題になっているが、気が付かないうちに劣化が進んでいることが多く、今後はわれわれ診断士の出荷も増えてくるだろう。ぜひ組織としての力を発揮していければ」と述べた。

この日の特別講演は、



「広島高速1号線の床版取替工事」がテーマ。広島高速道路公社保全課の梶谷裕人氏は、22～24年度に実施した3橋の床版取替工事について、工事の手順や工事概要、今後の課題などを説いたほか、極東興和の三原孝文氏は、これらの工事で採用された「エルスジョイント」のポイントを解説。床版を充填材料のみで接合することで、安全性・耐久性・走行性を損ねることなくループ接手の課題を解決する技術で、従来工法と比較して施工性や生産性、維持管理性などにも優れるとした。

このほか、昨年10月に鳥取市で開かれた「中国5県コンクリート診断士会協議会」の参加報告なども行われた。

広島県コンクリート診断士会（竹田宣典会長）

は14日、第62回定例会を広島市中区で開き、会員約30人が参加。特別講演では、広島高速道路公社の担当者が広島高速1号線の床版取替工事に関する事例を紹介。極東興和からは継手部の配筋を省

「令和6年度（補正）水産業競争力強化漁港機能

製作80個、消波ブロック10t据付163個、消波

参加資格＝PC工事の客観点数が10000点以

はJV構成員としての実績がある」など